

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第47回】

給田小学校新BOP ～共に育つ、子どもたちの居場所として～

世田谷区立給田小学校長 土橋 稔

平成7年、世田谷区では、児童の放課後を豊かにし、健全育成を図る場として空き教室を利用したBOP(Base Of Playing＝遊びの基地)事業がスタートしました。このBOP(放課後子ども教室)に既存の学童クラブ(47箇所)を統合した新BOP事業が、平成11年、世田谷区内の64校のうち4校からスタートしました。わが給田小学校新BOPは、BOP、新BOPとも、区内でもはやばやとモデル実施をしてきた小学校のひとつです。

給田小新BOPは、毎日100名をこえる学童クラブ児童と、遊び場として参加するBOP児童でいつもいっぱいです。子どもたちは、同学年だけでなく異学年の児童も一緒に、それぞれが好きな遊びに夢中です。行事も充実していて、毎月子どもたちに様々な体験をしてもらえるよう様々な企画があります。地域の農園との連携のもと行う、「いちご狩り」「じゃがいも堀り」「そうめん流し」「もちつき」などは、特色の一つとなっています。

活動の中では子ども同士の意見のぶつかり合いなどが多くありますが、スタッフはなるべく口出しをしないで、温かい目で見守ると共に、自分の意見や気持ちが相手に伝えられるよう支援しています。

子どもたちの成長にとって重要なことは、様々な居場所を持つことです。給田小は多くの居場所があり、そのひとつとして大きな役割を持つのが新BOPです。学校より少し自由で、集団で過ごすゆえ家庭よりルールがある。言い換えれば、学校の集団としての機能と、家庭生活のちょうど中間に位置する自由な遊びを核とした居場所と言えるでしょう。

同一の建物に2つの目的で同じ児童が活動することで、スタート時には様々な課題がありました。その課題をひとつずつ乗り越え、今はその機能が効果的に働いていることを感じます。「子どもたちから元気もらっています。」というスタッフや、担任の先生たちの温かいまなざしに囲まれ、子どもたちは今よりさらに、大きく、成長しています。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第154号に掲載)